

明神岳 東稜

【日時】 平成30年4月28～29日

【メンバー】 Y川 (L)、T

【概要】

4月28日 快晴

前夜は高山を過ぎたドライブイン駐車場で車中泊とし、上高地には7時に入った。雪は少ないようで、バスターミナル周辺の残雪もまばらである。明神まで足慣らしのためゆっくり歩き、橋を渡って登山道に取り付く。途中、沢の横断箇所を迷い少しウロウロしたが、昨秋の教訓を活かしルートに乗ることができた。後はひたすらひょうたん池を目指して登る。雪が全面を覆うのは宮川のコルを過ぎてしばらく登ってからであった。先行は2パーティ10人ほど、後続は1パーティ3人である。

ひょうたん池には、先行パーティが既にテントを設営していた。我々はらくだのコルを目指すこととする。アイゼン、ハーネスを装着しまずは第一階段へ。急傾斜の草付き登攀で、特に前半支点が無いので慎重に登る。我々の後には、3人パーティのみが順番待ちをしていた。第一階段から上は、断続的に雪壁と雪稜が続く。不安定な箇所が多く、スタカットで登ることとする。時間がかかるが、安全のためと割り切り少しずつ登って行く。らくだのコルは思ったより狭く、テント場もうかつに歩くと滑落しそうな所であった。今日の泊まりは我々だけのようで、後続の3人パーティは上がってこなかった。快晴無風、満月の静かな夜であった。

4月29日 快晴

快晴、無風の朝を迎える。気温も思ったほど下がっておらず、テント内の結露はほとんど発生していなかった。6時に出発する。雪稜を少し辿り草付き基部でビレー、ここからは急な草付きを登り雪稜を辿るとほぼ50mでバットレス基部に到る。バットレスは残置支点が多いものの、上半分は足場が少なかった。下部Ⅲ、上部はⅣくらいであろうか。約30mで終了点の安定したテラスに到着、ここでビレーする。ここからは草付きと雪の混じった斜面を右上して、小灌木でピッチを切る。左に折り返して、頂上直下の高度間抜群の雪壁を快適なダブルアックスで50m登って残置支点と岩角を使いビレー、このピッチは今山行のハイライトであった。さらに雪の斜面を左にトラバースして30mで安定した斜面に出た。このすぐ上は主稜縦走路であった。

明神岳山頂に雪はなく、西穂～奥穂～前穂がよく見える。前穂高岳へのダイレクトルンゼは、列をなして登っていた。気温が高く、雪が腐ると縦走や雪渓下降が難しくなると考え、奥明神沢のコルへ下山することとする。ほとんど雪の無い稜線を辿り、懸垂2回で奥明神沢のコルへ下降した。ここで、明神岳を往復する3人パーティと単独の方とすれちがった。

奥明神沢のコルから10mほど下降すると雪渓となり、傾斜が緩むところまで下降した後、アイゼンをはずし一気に岳沢小屋まで下山した。暑いくらいの好天で、テラスの椅子にもたれゆっくり休憩させていただいた。岳沢からはしばらく雪道を歩き、1時間少しで喧噪の上高地に帰着した。

結局ひょうたん池からは終始先頭で登ることが出来、ストレスの少ない山行であった。東稜の核心はバットレスとされているが、らくだのコルまでのルートが不安定であり、むしろこの区間の雪の状態が難易度を左右すると感じた。

4月28日 上高地 7:10 宮川のコル 9:55 10:05 ひょうたん池 11:30 11:50
らくだのコル 17:20

4月29日 らくだのコル 6:05 明神主峰 7:50 8:10 奥明神沢のコル 9:40 9:50
岳沢小屋 10:55 11:35 上高地バスターミナル 12:45



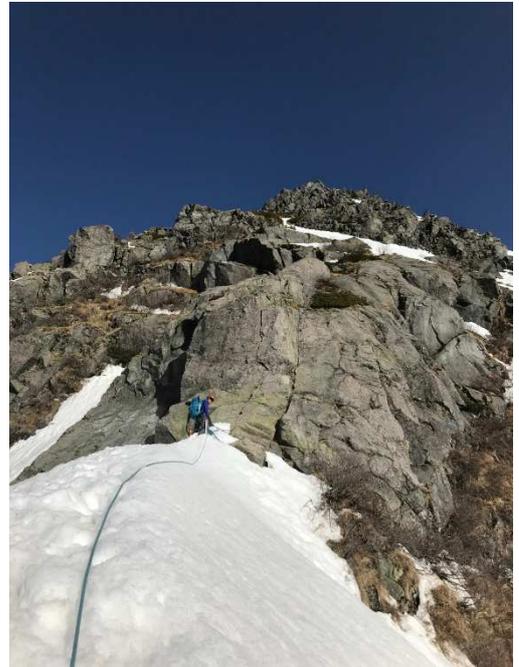
ひょうたん池を目指して登る



ひょうたん池より東稜



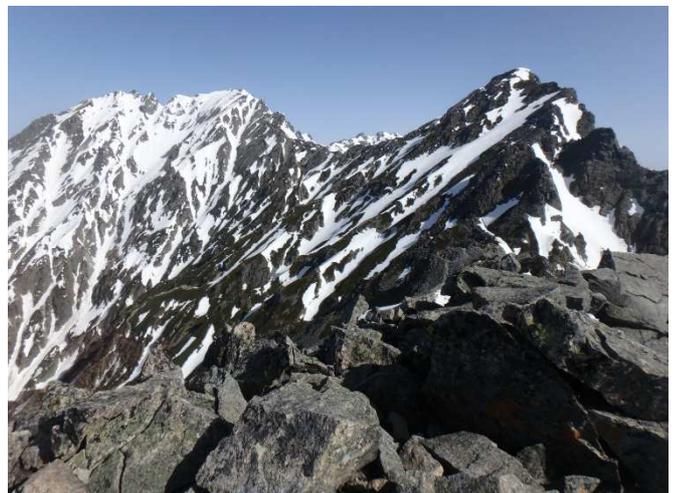
らくだのコルより明神主峰



東稜バットレス基部



バットレスの登攀



奥穂と前穂